

令和4年度埼玉県・オハイオ州グローバルスピーカープログラム前期
最終レポート

小澤怜

① はじめに

8月から始まったOSGSプログラムも早いもので全活動が終了しました。最初は楽しみな気持ちと同じくらい不安な気持ちもありましたが活動はどれも楽しく、今はやって良かった！と心から思っています。レポートもこれで最後となりますが、私の感じたことを通してOSGSに興味を持っていただけたら幸いです。

② プログラムを通して

このプログラムを通して得たことは大きく分けて2つあります。

英語力

授業のテーマである“More than words”に基づき「ホフステッドの6次元モデル」からそれぞれ課題が与えられました。私はその中の“Uncertainty Avoidance”（不確実性の回避）をペアのAbigailと担当しました。不確実性の回避とは曖昧なものや未知のものへの寛容度について表したものであり、日本の文化を大きく特徴づけるものの一つです。また、アメリカとの違いが顕著に表れているものだと言えます。週1回の頻度でZoomミーティングを行い、この課題についてアメリカと日本の違いを話し合いました。そして毎授業、ペアと話したことを発表します。話し合いの進捗状況を説明した後、先生からアドバイスや次のミーティングで話すときのポイントなどを教えて頂き、とても有難かったです。授業が進むにつれ内容、語句共により専門的なものになっていくので、分からなかった語句や先生や他のメンバーが使っていた表現などをノートに書き溜めて授業の後で見返すようにしていました。もちろん、分かったからと言って次の授業の時にサッと使えるかというとそれはまた別問題なのですが、授業を重ねれば重ねる程自分の中に新しい英語が増えていく感覚がありました。

伝える力

授業ではプレゼンテーションでの効果的な話し方、スライドの作り方についても勉強しました。グレッグ先生はそれぞれ説明した後実際のプレゼンの動画を見せてくれるので大変分かりやすかったです。またご自身の経験を踏まえて説明してくれることもあり、自分がプレゼンをする時のイメージをより強く持つことが出来るのでいつも参考にさせて頂いていました。

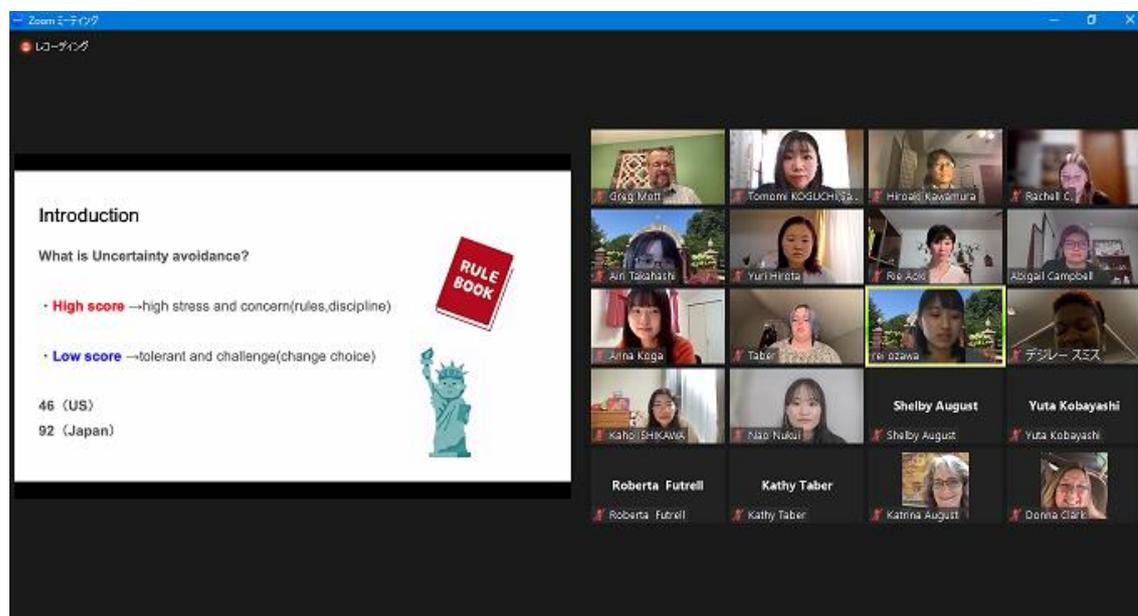
またグレッグ先生は授業冒頭に“2週間の出来事”について私達に尋ねられます。一人ひとりが話す時間は数分なのですがこの質問に答えることがとても良い準備運動でした。また他のメンバーの出来事を聴くのもとても面白く、いつもがちがちに緊張していた私はこの時間でいつも気分を落ち着けていました。

他にもオハイオ州での初雪の様子、コーラスやフィンドレー大学のマーチングの映像を見せてくれ、講義内容以外でも私達のコミュニケーションに気を配って頂いている印象を持ちました。授業だ、講義だと姿勢を正して臨むのはとても大切なことなのですが、「教えるだけ」の受動的なものではなく、主体的に授業を楽しむことが念頭に置かれた授業だったように感じます。

授業やミーティングを通して私は今まで「正しい文法で話さなければ」と気負いし過ぎていたことに気付きました。分からないことも、正しくない文法であっても、それを伝えることで新たな会話に繋がります。このプログラムの目標である「英語で発信する力」は流暢な英語で意見を述べる事だけを目指しているのではなく、分からないことを分からないと伝える、理解できないポイントを相手にきちんと説明できることも一つの要素なのだと感じました。

③ プレゼンテーション

12月4日にオンラインでのプレゼンテーションを実施しました。フィンドレー大学の学生さんや過去のOSGS生などが聞きに来てくれました。とても緊張したのですが、今までペアと話し合ってきたことや、共有しながら作成したスライドを基に約12分の発表を行いました。質疑応答や議論の時間では様々な意見が寄せられとても勉強になりました。



(プレゼンテーションの様子)

④ 埼玉親善大使としての活動

埼玉県の魅力を発信するべく、私たちは「藍染体験」と「川越の街並み紹介」を実施しました。どちらの活動も人生初の体験で私自身、新たな魅力を発見できたと感じてい

ます。藍染も川越も昔から受け継がれ、愛されてきたものであり季節を通して変化します。藍染にも、藍を発酵させて色を出す手法だけではなく、生の藍の葉を使って染めるやり方もあるのだと教えて頂きました。生の藍染では鮮やかな水色をしていて同じ植物でも手法でこんなに変わるのだととても驚きました。活動記録はInstagram から見ることが出来ます。私達の2つの体験を通して皆さんに埼玉について興味を持っていただけたらと思います。

余談ですがいつもの授業では英語で話しているメンバーとこの時は日本語で会話をしてとても不思議な気持ちになりました。

⑤ OSGS 成果発表会

2月12日にオンラインにて成果発表会を行いました。メンバー5人で担当を決め、今期の活動を個人の感想と共に発表しました。今年初の試みだったのがフィンドレー大学の学生さんも聞きに来てくれ、発表の後、英語で質疑応答・議論を行ったことです。「ホフステッドの6次元モデル」は私たちが最も時間をかけてきた課題でもあるのでこのことについても一度議論出来て大変嬉しく思います。特に「個人主義と集団主義」については多くの意見が飛び交いました。



The screenshot shows a presentation slide with the following content:

- Recording indicator: レコーディングしています
- Title: Summary of this program
- Cartoon penguin mascot with 'SAITAMA' text below it.
- Video thumbnail of a woman named Rei Ozawa.
- University of Findlay entrance photo.
- Bulleted list:
 - With University of Findlay
 - Ability to communicate in English
 - Learning communication and presentation
 - Difficulty

(成果発表のプレゼンの様子)

⑥ 終わりに

当初は活動の半年間をとっても長く感じていたのですが、始まってしまえば“光陰矢の如し”であつという間に最終レポートを書いています。普段の生活の中ではあまり関わることの無い中学生や社会人のメンバーとの話し合い、一緒に取り組んでいく経験が出

来る機会はとても貴重でメンバーの姿から学ぶことも多くありました。また、海外の同世代の方と英語で話すもの私にとって初めての経験となりました。ドキドキしながらも自分の伝えたいことが言えた時、ペアの意見に深く共感した時はとても感動します。

OSGSの全ての活動において主体的であり、自ら発信する力が重視されていると感じますし、またメンバーやペアと一緒に課題に取り組み自分一人では経験できないことがこのプログラムには詰まっています！

少しでも興味が湧いたらぜひ応募してみてください！

最後にこの活動を支えて下さった全ての方に感謝申し上げます。ありがとうございました！